

No.	感染症(PT)	出典	概要
98	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
99	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
100	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。、VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
101	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。
102	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
103	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
104	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	New Zealand J Agricultural Research 2005; 48: 499-515	BSE、スクレイピーおよび慢性消耗病はニュージーランドには存在しないが、サーベイランスは、死後検体をイムノブロット法で検査することにより行われている。最近開発されたイムノブロット法(CDI)はTSEの株や亜型を区別でき、血液検体中での検出も可能かもしれない。増幅法(PCMA)は最小量を検出できる。
105	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPsc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPscが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPscは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
106	変異型クワイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2006; 103: 5285-5290	ヤギおよびウシのプリオン蛋白の発現を抑制することができるshRNAを、レンチウイルスベクターを用いて、ヤギ線維芽細胞にGFPと共発現させた。これらの細胞を用いて核移植を行い、クローンヤギ胎仔を作成した。クローン胎仔では検査した全ての組織でGFPを発現し、PCRでPrP shRNAをエンコードする遺伝子の存在が確認された。脳組織をウエスタンブロットしたところ、対照胎仔に比べ90%以上のPrP発現減少を示した。

No.	感染症(PT)	出典	概要
107	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
108	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060405-0020	輸血でだれもがvCJDに感染する可能性がある。しかし遺伝子によってどんな症状が出るかが決定される可能性がある。これまでのところ、ヒトvCJD患者の全例が、ある特定の遺伝的プロフィールを持つ者であった。しかし、国家CJD監視部局と動物保健施設の研究者らのマウス実験によると、他の遺伝子型の者も危険があることが示唆される。Lancet Neurologyによると潜伏期が一部の者で長くなる可能性がある。
109	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
110	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年 3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイピーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
111	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5 月2日 <a href="http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html">http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html</a>	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
112	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Rec 2005; 157: 206	6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウシの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後655日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。
113	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	カナダ Canadian Blood Services	2005年8月15日、カナダ血液サービスは、英国やフランスなどの最新のセーフガード情報に基づき、vCJDに関連した供給停止措置の変更を行った。また刺青やピアスをしている人などに対する一時的供血停止の変更を行った。
114	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 <a href="http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/">http://www.dh.gov.uk/ PublicationsAndStatist ics/PressReleases/</a>	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
115	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス 学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
116	ウイルス感染	CDC/MMWR 2006; 55(03): 65-68	2004年から2005年にかけて米国で発生したヒトにおけるオルフウイルス感染4例についての報告。オルフウイルスはヒツジやヤギなどの小型反芻動物と関係する人畜共通感染症で、接触後に潰瘍性皮膚病変が起こる。医師の認識不足のため、診断の遅れや不必要な抗生物質の使用がみられる。オルフウイルス感染症の危険性や予防に関する認識を広める必要がある。
117	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。
118	ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
119	ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5963-5972	ブタサポウイルス(SaV)の遺伝的多様性を調べるため、1999年から2003年に米国のブタ農場で採取したブタ糞便から検出した9例のブタSaVについてヌクレオチド配列を詳細に調べた。その結果、新しいゲノグループを同定し、組み換え型を同定した。ブタSaVがヒトSaVと遺伝的に近い関係にあることを初めて報告した。
120	ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
121	ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健康ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。
122	ウイルス感染	ProMED20060118-0162	インドのSullia地域Panja村で30人近くがサル熱(キャサヌール森林病)に罹患したと疑われている。最近、約5頭のサルの死亡が報告されている。医師によると約16例がサル熱であり、そのうち6例が危篤である。
123	ウイルス感染	ProMED20060204-0090	セーシェルにおいて2000名近くがインド洋の3島に拡がる蚊の媒介する疾患に感染していると政府地域医療局長が述べた。、チクングンヤと診断された患者が2005年11月以降増加しており、2006年1月だけで1000名近い患者が報告されている。
124	ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
125	ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。

No.	感染症(PT)	出典	概要
126	ウイルス感染	ProMED20060305-0110	2005年3月28日から2006年2月19日の間に、レユニオン島では31人の臨床医ネットワークにより、2406例(2月13日から19日の333例を含む)のチクングンヤ患者が診断された。数理モデルによれば2005年3月からの患者数は157000例にのぼり、うち22000例は2月13日から19日に発症したと推定される。
127	ウイルス感染	ProMED20060402-0040	ホンコンで初のチクングンヤ患者の診断がなされた。モーリシャスの輸入例にほぼ間違いない。この患者は66才中国人男性で、親戚を訪問するため1週間モーリシャスに滞在し、帰国2日後の3月24日にプリンスオブウェールズ病院を受診した。患者は2日前から発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹で発病していた。この患者はモーリシャスの辺地の親戚を訪問し、蚊に刺された。鑑別診断はデング熱であったが、ProMED情報によりチクングンヤが疑われ、検査を実施した。
128	ウイルス感染	ProMED20060414-0010	中国北部の高校で、学生1名が未確認のウイルス性疾患により死亡し、数十名が高熱で入院したため、学校が閉鎖されたと4月12日国営メディアが報じた。北京タイムズによると、医療当局は陝西省での流行がトリインフルエンザではないとする一方で、ウイルスの特定に努力を続けている。この疾患は、3月末にチーシャン郡(Qishan county)の19才の学生が高熱を発したことで明らかとなった。
129	ウイルス感染	ProMED20060507-0030	ターニャウイルスはウエストナイル様の脳炎をヒトに起こしうるウイルスで、ヨーロッパの蚊、ウサギ、トリの間で一般的であり、既にこの様な感染症に罹患し死亡者が出ている可能性がある。毎年50人程度の英国人がウイルス性脳炎で死亡しているが、このうち原因病原体が判明しているのは40%以下である。
130	ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトTリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。
131	ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 <a href="http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html</a>	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
132	ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年2月20日	オーストラリアにおいて、蚊により媒介される感染症であるロスリバーウイルスとバーマフォレストウイルスの発症数が増加している。2006年1月中の感染者数は、各々、838例および127例で、過去5年間の平均の約4倍および約2倍と推定されている。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
133	ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月11日	インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。ヨーロッパでは帰国者による輸入例が報告されている。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
134	ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。

No.	感染症(PT)	出典	概要
135	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
136	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(39) 2005年9月30日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 18。今回報告終了日ー2005年9月28日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細ーColorado州Alamosa郡、Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日～2005年9月16日):ウマにおいて疑い例10例、症例1例。ウシにおいて疑い例67例、症例2例。ーMontana州Carbon郡、Stillwater郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年8月2日)
137	コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
138	デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
139	デング熱	ProMED20051106-0080	中国(香港)の健康保護センターは、50才女性の新たなデング熱輸入患者を確認したことを受けて、市民にデング熱の感染予防を呼びかけている。女性患者は、10月15日に発症した際、バングラデシュ滞在中であった。2005年の香港でのデング熱患者数は23名となり、全例が輸入患者である。
140	デング熱	ProMED20060111-0020	インドネシアで2005年12月のデングウイルス感染者数は61名となり、10月の22名、11月の20名に比べ、大幅に増加した。Yogyakarta地域Bantul地区では豪雨が続き、2006年1月にはさらに増加すると思われる。ネッタシマカのボウフラがいない地区は、この地域では67%に過ぎない。雨季に加え、衛生状態が不良であるとも感染者数を増加させている。
141	デング熱	ProMED20060128-0020	ブラジル、リオデジャネイロで過去5週間に発生したデング熱流行により、少なくとも2名が死亡した。2006年1月26日までに217名がデング熱に感染しており、2005年同月の患者数の約4倍に上る。
142	デング熱	ProMED20060305-0130	香港で、1月27日から30日にタイに滞在した48才の女性が、2月4日にデング熱を発症、9日に入院、15日に退院した。2006年の患者は4例で、全て輸入例である。
143	野兔病	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1835-1841	野兔病の原因菌であるFrancisella tularensisの北米における分離株161について、遺伝学のおよび地理的多様性パターンを調べた。遺伝学的には4つのグループに大別され、地理的分布に差が見られた。これらの分布は、特異的なベクター、野兔病の宿主などの地理的範囲と関連がある。
144	ボツリヌス中毒	ProMED20060525-0040	オーストラリアにおけるウシの大量死の原因は、稀なボツリヌス菌株による中毒であった。専門家は現在、稀なボツリヌス菌株が、Murray Bridge近郊の酪農場で発生した疾病の原因であると考えている。
145	マラリア	CDC/MMWR 2006; 55(SS04): 23-37	米国の2004年におけるマラリア症例は1324例であり、2003年より3.6%増加した。海外でマラリアになった合衆国民間人775例の内、CDCが推薦する予防薬を使用した人は20.6%しかいなかった。米国内で感染した4例中3例は先天的感染によるもので、残り1例は研究室の蚊によるものであった。あった。
146	マラリア	ProMed20051015-0070	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴はない。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もない。

No.	感染症(PT)	出典	概要
147	ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。
148	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC Birth Defects 2005年10月5日	リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)は野生マウスによって運ばれ、ペットのげっ歯類に感染する。ヒトは感染したペットの尿、血液、唾液などから感染し、妊婦が感染した場合には胎児も感染する可能性がある。生まれる前にLCMVに感染した乳幼児は重篤な奇形を有する可能性がある。
149	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(14): 398-399	2005年5月、ペットのげっ歯類から感染したと思われる共通のドナーから臓器移植を受けた3例のレシピエントの死亡にLCMVが関与していた。同年8月にコネチカット州公衆衛生局はLCMV感染症の最近の発生率、LCMVに関する認識の程度、および検査の頻度について病院検査室および感染症医師の調査を行った。その結果、医師はLCMVを知ってはいるが、LCMV検査は頻繁には行われておらず、LCMVを考慮する必要性を認識していないようであった。
150	レプトスピラ症	Int. J. Syst. Evol. Microbiol 2006; 56: 593-597	タンザニアではレプトスピラ症の感染率は家畜やげっ歯類で一般に高い。家畜から単離されたレプトスピラを血清学的および分子学的に同定を行ったところ、RM1とコードされた単離体は、セログループ IcterohaemorrhagiaeのL.kirschneri種の新しい変異型であり、Sokoineと名づけられた。
151	レプトスピラ症	第88回日本細菌学会 関東支部総会	動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、アメリカモングが感染源であった。分離株はLeptospira kirschneri serovar Grippotyphosaと同定された。
152	レンサ球菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。
153	レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第10週: 5-7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は日本では例年冬季から夏季にかけて報告数の増加がみられる。感染症動向調査によれば、2006年は1996年以降の過去10年間と比較して、報告が最も多い状態が続いている。
154	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。中国の科学者らは、「ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。」と述べた。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。
155	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
156	ロタウイルス陽性	Virus Res 2005; 113: 73-80	2004年2月にハンガリーで、1つの群れのウサギ60羽が急性腸炎で死亡した。その原因を詳しく調べたところ、新しい家兎ロタウイルスP[22]が同定された。
157	ロタウイルス陽性	第53回日本ウイルス学会学術集会/261	2003年11月から2004年10月に岡山市内のと畜場で採取された成豚の盲腸便について、C群ロタウイルス(CRV)の有無をnested PCR法により検討した。その結果、10検体(1.5%)がCRV陽性であった。またPCR産物の塩基配列を解析したところ、Cowden株に近縁なタイプであった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
158	感染	AABB Weekly Report 2006; 12(3): 4	New Yorkの葬儀店が家族の同意を得ずにヒトの組織を不法にBiomedical Tissue Serviceに販売し、書類が改ざんされ、5社に売られた件に関して、上院議員がFDAに組織移植産業にさらに監視を強めるよう要請した。2005年10月にFDAは同社により販売された組織の回収を始めた。しかし、12月に、背中の中手術中に同社の骨片を移植された女性が梅毒に感染したことが報告された。
159	感染	FDA Public Health Notification 2006年3月2日	FDAは、BioMedical Tissue Services(BTS)により回収されたヒト組織に関する情報の更新を医療関係者に通知した。FDAのドナー適格要件に適合していない可能性があったり、感染症について適切なスクリーニングをされなかったおそれのあるヒト由来の骨、皮膚、腱を含む組織はBTSにより回収された。BTSドナーから加工された組織インプラントを受けた患者には感染症伝播のリスクがあることを知らせ、検査を受けるように伝えることを医療関係者に強く求めた。
160	感染	IASR 2005; 26: 306-307	2005年5月27日～6月7日までカンボジアに行き、6月10日～6月13日までハバロフスクに行っていた74歳男性が、帰国後の6月17日頃より咳、発熱などを呈し入院した。耳介の腫瘍より、マダニ刺咬症と考えられ、ライム病と診断された。病原体はBorrelia valaisiana近縁種であった。Borrelia valaisiana近縁種による感染例は世界で初めてである。
161	感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第11週: 3	日本における2006年第11週(3月23日集計分)の5類感染症の定点把握結果を報告した。小児科では咽頭結膜熱が第5週以降、増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。マイコプラズマ肺炎は増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
162	感染	ProMed20051030-0050	ナイジェリアJigawa州で原因不明の疾患により54人もの子が死亡し、数人が危篤である。この奇病は、高熱で始まり、2-5歳の子が感染する。最初、発疹が現れ、まもなく死亡する。現地の医療当局は調査を開始した。
163	感染	ProMed20060322-0040	アンゴラHuambo州Tcholidi村で原因不明の疾患により10人が死亡した。患者は、まず脚が冒され、次に腸に広がり、1週間以内に死亡する。公衆衛生の専門家が近いうちに現地調査をする予定である。
164	感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年3月10日	米国ミネソタ州保健局によると、男性と性交渉を持つ男性(MSM)における感染性梅毒の症例数は2004年と比較して約3倍になっている。MSMの症例のうち約37%はHIVにも感染していた。
165	感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月5日	2004年におけるカナダの感染性梅毒の感染率は10万人中3.5人で、1997年の報告と比較して約9倍になった。特に男性での増加が著しく、2004年の報告例のほぼ90%が男性で、1997年の15倍以上になった。また男性患者の82%が30～59歳である。カナダでの性感染症の1位はクラミジアで2004年には約63000例(10万人中197.1人)が報告され、1997年より70%以上増加した。2位は淋病で、2004年には10万人中28.9人で1997年の約2倍であった。
166	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
167	寄生虫感染	第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日	平成16年8月に長野県での水泳合宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起こったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。
168	狂犬病	CDC 2005年12月23日 <a href="http://www.cdc.gov/n.cidod/dvrd/rabies">http://www.cdc.gov/n.cidod/dvrd/rabies</a>	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。
169	結核	ProMED20060201-0040	米国ミネソタ州北東部で家畜の群れ5群がウシ結核に感染し、全て同一株であると思われる。連邦政府はミネソタ州の家畜の売買を制限すると思われる。

No.	感染症 (PT)	出典	概要
170	口蹄疫	OIE http://www.oie.int/en/ g/info/hebdo/AIS_27. HTM#Sec10	ブラジルにおけるブタの口蹄疫について、2005年12月7日から22日にはMato Grosso do Sul州で疑い例62が発生した。2005年12月23日から2006年1月6日にはParana州での発生が報告された。2006年1月7日から1月18日には新たなアウトブレイクは報告されていないが、両州では引き続き警戒態勢がとられている。
171	細菌感染	CDC/MMWR 2005; 54(45):1153-1155	2003年11月から2004年5月に北アメリカの港発のクルーズ船で旅行したヒト(940万人以上)の中で、8人がレジオネラ症を発症し、うち2人が死亡したとCDCに報告された。患者8例の平均年齢は55.8歳(23-76歳)で、5つの異なるクルーズ船に乗船し、2例は同じ船旅であった。どの症例についても感染源を同定することはできなかった。
172	細菌感染	IASR 2006; 27: 15-16	種々の抗菌薬が効かず、約2週間にわたり、胆管炎によると思われる発熱を繰り返した61歳の女性から、敗血症の起原菌としてArcobacter butzleriを分離・同定した。日本で初めてのヒトからの検出例である。
173	細菌感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 6020-6026	ザンビアで2週間以上、結核の症状を呈した213例の患者(69%がHIV陽性)の喀痰を検査したところ非結核性マイコバクテリア(NTM)が90例から分離された。無菌部位からの検体25例中8例がNTM陽性であったが、このうち4例からMycobacterium lentiflavumが、1例からMycobacterium goodiiが分離された。両菌の感染がアフリカで示された初めての報告である。
174	細菌感染	J Hosp Infect 2006; 62: 250-251	ヘパリンの静脈内注入に関連したAgrobacterium tumefaciensによる菌血症3例を報告した。患者から分離された菌は異なった株であった。全例ともカニューレをはずすことで症状は回復した。
175	細菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 105-107	オランダで1993年から2003年の間に新生児3例(女児2例、男児1例)でリステリア・モノサイトゲネスによる侵襲性感染が確認された。女児1例は後遺症もなく存命だが、他の2例は新生児期に死亡した。死亡例のうち1例は母親が低温殺菌されていない牛乳を飲んだことが原因である。この感染症は稀であるが重篤なため、妊婦に菌に汚染されたおそれのある食料を食べないようにアドバイスすることは重要である。
176	細菌感染	Pediatr Infect Dis J 2005; 24: 1099-1103	新生児集中治療室(NICU)で発生したRalstonia pickettii菌血症患者18例について、非感染のNICU乳幼児を対照として、比較検討試験を行った。統計的に有意な危険因子は示されなかったが、感染群は全員、病院の薬局で調剤されたヘパリン灌流を受けていた。
177	細菌感染	ProMED20051015- 0040	中国衛生部はコレラ患者の増加に対し、警告を発した。中国では2005年6月から9月の間に638人のコレラ患者の報告を受け、そのほとんどは福建省と浙江省であった。
178	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
179	細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少があった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフエーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。
180	日本脳炎	第9回日本ワクチン学 会学術集会/87	2004年度のヒトおよびブタにおける日本脳炎抗体保有状況を、ヒトで8都県約2000人、ブタで33都道県約4000頭を対象に調査した。その結果、現在も日本に日本脳炎ウイルスが存在していることが示された。
181	髄膜炎感染	Lancet 2006; 367: 419-423	中国Anhui省で2003~2004年に発生した髄膜炎から単離された34株のうち31株、ならびに2004~2005年の30株のうち17株がセログループCの髄膜炎菌であった。中国全土の調査で、2004~2005年に単離された542株のうち58株がセログループCの髄膜炎菌であった。106のセログループC株を分析したところ、89株が同一のPFGE(pulsed-field gel electrophoresis)パターンを示し、AH1と名づけられた。
182	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。



No.	感染症 (PT)	出典	概要
183	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県の安房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
184	炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、 19(20) 2006年5月18日	2006年4月10日、レソトで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
185	炭疽	Trop Doct 2006; 36: 51-53	トルコでウシの死体を感染源とする炭疽感染により3例の患者が発生した。炭疽は髄膜、皮膚および喉頭に影響を及ぼし、髄膜炎を併発した患者1例は死亡した。死んだウシに接触したり、肉を食べた20人は全員、予防的にテトラサイクリンを服用し、健康である。
186	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
187	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロップを持つウイルスだけでなく、エンベロップを持たないウイルスも高率に除去された。
188	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。